学長室から
MESSAGE

# 部活動の現在と未来

学校における部活動は、本来楽しく、貴重な友人関係が生まれる場所です。現在の部活動が何故これほど問題になるのでしょうか。一つは、平成26（2014）年に発表されたOECD国際教員指導環境調査（TALIS）です。「1週間当たりの教員の勤務時間は参加34カ国中最長であり、授業時間は参加国平均と同程度であるが課外活動の指導時間が特に長い」という結果でした。これまでも教員の部活動に関わる時間は水面下では問題視されてきましたが、教員による指導という時間尺度での話なので、教員以外の指導者が措置されればこの問題はかなり解決します。もう一つは、平成24年に大阪市立桜宮高校で起こった部活動における体罰事件です。スポーツの強豪校といわれる学校でしばしば発生する指導の中身の問題であり、こちらは指導者が誰であるかは問いません。このように指導時間の長さの話と指導の中身の話は、異なる立場からの部活動論に発展しそうですが、実際にはリンクしています。特に中学校や高校の運動部では、地域でのリーグ戦で勝ち進めば、県内大会、そして全国大会へ出場するように勝負の世界という側面もあり、勝ち進むことを目標とする場合、相当の練習時間が必要となることが想定されます。

スポーツ庁が、昨年3月に運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを発表しました。学期中は週2日以上の休養日を設け、1日の活動時間は平日2時間、休日3時間までとするという内容です。一方、平成29年3月告示の中学校学習指導要領では、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については（中略）学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携等の運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにする」と記されています。「自主的、自発的な参加」も重要な部分ですが、「持続可能な運営体制」に到達するには、まだまだハードルがありそうです。勝てるチームになりたい・育てたいという自然発生的な願望を、所定の限られた部活動の時間の中でどのように達成するのか。この問いについて、誰か根本的な解決策をお持ちなのでしょうか。

学長 福田光完（ふくだ みつひろ）